

甲状腺外科草子 90

名将朝倉宗滴：犬畜生と言われても勝つ

杉野圭三

越前朝倉家は信長に敗れた戦略上判断から優柔不断の印象を持たれるが、家中には有名な武将がいた。**朝倉宗滴** (1477—1555) である。

宗滴は初代英林孝景の末子で三代貞景、四代孝景、五代義景に軍奉行として仕えた。

永正三年 (1506) の能登・越中一向一揆では約三十万の大軍が坂井郡に侵攻、宗滴は大将として出陣し九頭竜川大会戦で勝利。

永正十四年 (1517)、丹後に出陣し若狭逸見氏と丹後守護代延永氏の反乱を鎮圧。

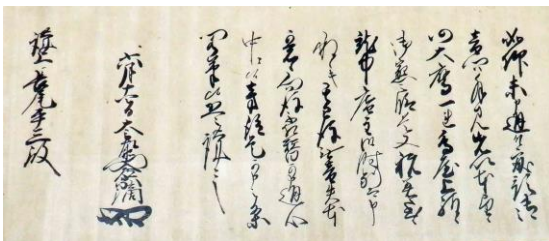
大永五年 (1525)、近江小谷へ出陣し六角氏と浅井氏の争いを調停。

大永七年 (1527)、足利義晴將軍の要請で上洛、下京西院口合戦と東寺の防衛戦に勝利。享祿四年 (1531)、加賀一向一揆 (享祿の錯乱) に際し手取川に侵攻するも撤退、養子の景紀に敦賀郡司職を譲ったが軍奉行は継続。

天文十三年 (1544)、尾張織田軍と連携して美濃に出陣、斉藤道三と戦う。

弘治元年 (1555)、越後上杉氏と連携して加賀に出陣。連戦連勝で一揆勢数千を討伐したが病で急遽帰国、九月八日一乗谷にて病没。

享年七十九才、法名月光院殿照葉宗滴大居士



朝倉宗滴礼状 (上杉謙信宛)

宗滴の話の家臣の萩原八郎右衛門尉宗俊が書き留めた「朝倉宗滴話記」を以下に記す。

1. **ゴリ押し**の愚：山城、平城であれ無理やり攻めるのは大将の失策である。
2. **不可能**と言うと志の弱さを見抜かれる。
3. **口頭伝達**が不正確だと悪い結果となる。

4. **武者は犬ともいへ、畜生ともいへ、勝つ事が本にて候事**

5. **大将の心得**として配下を大切に扱えば身命を惜しまず奉公に努め、人材も多数できる。

6. **主従共に互いに辛抱**することにより多くの家来が育ち役に立つようになる。

7. 家来から侮られていると思うようであれば心が狂乱し主人としての資格が無い。

8. **有能な名将**の共通する特色は親しみ深く、質素で情け深いことである。

9. **愚将**の特徴は威張り、無礼で猜疑心が強い。

10. 英林様 (朝倉敏景) は誰にも**丁寧な態度**で国政を行い、侍や百姓・町人にも礼を尽くした手紙を自分で書き、皆身命を捧げ味方した。

11. どれほど賢い人にも**得手・不得手**があり、それぞれ**適材適所**に用いることが重要。

12. **老巧の大將**は一度重大な敗戦を経験した者。自分は勝ち戦ばかりで老巧の将でない。

(コレは自慢話ですか！)

13. **人使いの下手**の手本は土岐頼芸 (よりなり)、大内義隆、細川晴元。

14. **人使いの上手**は今川義元、武田信玄、三好長慶、上杉謙信、毛利元就、織田信長ら。

15. **戦の基本**は「**耳は臆病に、目は勇敢に**」 (事前の判断は慎重に、その場に臨んでは勇敢に)



齒に衣着せぬ明快・単純な言葉で、名将・愚将の実名を挙げて評価しているのは痛快である。「戦」の本質を理解し部下を掌握することにより大敗を経験することなく、生涯を通じ戦場に臨んだ名将であった。

参考資料：武家の家訓 (吉田豊)、Wikipedia、福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館、戦国大名朝倉氏 (越前若狭歴史回廊より)

(一甲状腺外科医の徒然なる随想)

2024年2月1日